

三心を磨く

学校だより NO. 20
令和元年 9月17日(火) 発行
須坂市立東中学校
文責：金井 勝久 (教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

「ベネッセ総合学力調査」の結果より

須坂市の全小・中学校で行われました「ベネッセ総合学力調査」(本校では4月8・18日に実施)の結果が公表されました。今後の教育活動に役立てるため、本校の結果を分析いたしましたので、その概要をお知らせいたします。尚、この調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり総合的な学力を示すものではありませんのでご了承ください。

◇ベネッセ総合学力調査〈教科に関する調査結果の概要〉【須坂市中学校の平均と比較】

【凡例】 ・上回る … +3.0以上 ・やや上回る … +1.0以上 ~ +3.0未満
・下回る … -3.0以上 ・やや下回る … -1.0以上 ~ -3.0未満 ・同程度 … 0.0 ~ ±1.0未満

	国語	数学	英語	社会	理科
1学年	やや下回る	やや下回る		下回る	やや下回る
2学年	上回る	上回る	上回る	やや上回る	同程度
3学年	やや下回る	上回る	下回る	やや下回る	やや上回る

◇ベネッセ総合学力調査 〈意識調査平均スコア〉【3学年は全国学テで実施済み】

【中1】意識調査平均スコア (%)

	学びの基礎力	社会的実践力	学級力	家庭学習力
本校1学年	72.1	64.9	72.1	73.0
須坂市	70.6	66.0	69.7	73.4
差	+1.5	-1.1	+2.4	-0.4

【中2】意識調査平均スコア (%)

	学びの基礎力	社会的実践力	学級力	家庭学習力
本校2学年	69.8	66.2	74.0	67.0
須坂市	71.3	67.6	71.1	69.9
差	-1.5	-1.4	+2.9	-2.9

【考察】

1学年は、「意識調査平均スコア」からもわかるように「自尊感情が豊か」であり、自分自身の取組に対する評価が高い傾向にあります。よって「自分ができる」「私にはわかる」「僕はやっている」という前向きな評価ができています。この意識や気持ちはとても重要です。

しかし、教科に関する調査(小6までの定着・理解度を調査)では、須坂市内中学校の平均との比較ですべての教科で下回りました。4教科(英語を除く)の中では、特に社会科の理解が浅く、復習や学び直しが必要です。通常授業の中へ「小学校の復習」も取り入れていきます。

これまでの「三心を磨くNO.〇、〇」でもお伝えしてきましたが、アンケートの結果からは「家庭学習への取組の弱さ(学習時間の少なさ)」「宿題をやってこない・出せない」ことが明らかとなっています。また、教科に関する検査結果でも、全教科で須坂市平均を下回っています。つまり「できる」「わかる」「やっている」という自分の意識と実際の結果に「大きな差」があるということです。

今後は、自分自身の取組や現状を正しく理解させながら意識と実際のギャップを縮めて行きたいです。

1学年の課題は、「学習習慣の確立」です。中学では宿題や課題の提出は必然です。よって「宿題を出さなくても何とかなる」「宿題をやらなくてよい状況」が通る世界を絶対に許さない指導をします。具体的には放課後に「家庭学習指導優先日」で対応します。

また、中学では学期や学年が進むにつれて学習内容も増えてきます。日々の復習は必然であり「宿題」プラス「復習の時間が」が必要となります。そこで家庭学習の時間を確実に作り、学習をしてほしい

ところです。学校でも引き続き指導をしますが、ご家庭でも家庭学習の大切さを伝え、見届けてください。学校と家庭とが一体となって、「学習習慣」を確立して行きたいと思います。

2学年は、すべての教科で須坂市内中学校の平均を上回り、英語・数学は「大きく上回り」しました。これまでの学習が定着し、順調に伸びています。また、日頃の提出ノートへの取組のよさも輝いています。この流れを大切に、学力の向上・さらなる高見をめざしてまいります。そして、自分たちの取組のよさや努力の姿の自信がもてるように、職員はそれぞれのよさを大いに認め・賞賛してまいります。



3学年では、数学が「大きく上回り」、理科と国語・社会が「ほぼ同程度」、英語で「下回る」結果となりました。中でも数学は、チェック問題やドリル学習、TT指導の成果が現れました。課題は「英語」です。英語に対しては、他の調査（アンケート・学力学習状況調査等）でも明らかとなっていますが、生徒たちの英語に対する意欲や関心の低さ、学習不足があり、苦手意識もあるようです。

そこで教科指導では、「わからないことがわからない」「わからないことをそのままにしている」生徒に対して、「授業中のTT指導の充実」と「きめ細かな支援」、「プリント学習の確認と添削」など、これまで以上に力を入れて行ってまいります。

全体を通して見えてきた課題は「その日の授業で取り組んだことを、その日のうちに復習する」ことです。英語や数学の学習は、毎日の積み重ねが得点として顕著に表れます。家庭学習の時間を確実に位置づけ、1学年は1日「最低1時間」、2学年は「最低1.5時間」、3学年は「最低2時間」（高校入試を考えると3時間以上）の学習時間をめざし、クリアしてほしいと願うところです。

また、「学力の二極化」も進んでいます。生徒たちの得点分布スコアをみると完全に「2コブ」の形となっています。着実に学習をして理解を深め、得点を伸ばしている層と、学習が不足し基礎的・基本的な内容が定着していない層とにはっきり分かれてきています。とても重要課題です。私たち職員のアプローチとしては、まずは宿題や課題の「確認」「見届け」です。プリント学習では「添削」に力を入れ、わからないところ、定着していないところを明確にし、支援していきます。

そしてもう1つは「意識」「習慣」の改革です。「やればできる」という気持ち、「やるべきことはやる」といった習慣づくりを大切に、確実に取り組ませていきます。

学校としては、この事実をしっかりと受け止め、全職員が共通の課題、意識として今後の指導に生かしてまいります。具体的には、これまでの取り組みから成果が明らかとなっている「ICTを活用した協同的な学び」をさらに深め、進めていくこと、これまで通り日課を工夫しながら「家庭学習指導優先日」「補習の日」「プレテスト」などを実施し、個別指導を通して理解の不十分な生徒へ指導すること、「読む・書く・まとめる」力が確実につく「斜面ノート」への取組、数学・英語プリント（クリア・チャレンジ問題）、朝ドリルなどを、確実に進めてまいります。

学力の向上には、家庭学習の充実が不可欠です。引き続きご家庭でもご協力をお願いいたします。

